



No. 112

「聖書を学ぶ楽しさ」

藤沢福音自由教会 牧師 相島 功

私が初めて聖書研究というものに出会ったのは、大学時代にキリスト者学生会(KGK)を通してでした。キリスト者学生会では、観察、解釈、適用といった帰納的聖書研究方法によるテキストを用いて聖書を学び、伝道していました。

私が現在の教会に赴任してから17年になりますが、私の牧会伝道の基本にはこの帰納的聖書研究があります。赴任してまず初めに帰納的聖書研究方法によるデポジションノート「静思の時」を作り始めました。さらに、週2回、水曜日と土曜日に聖書を学んでみたいという方々のために聖書入門クラスをスタートしました。そして、祈り会でも翌週の礼拝説教の聖書箇所を帰納的聖書研究によって事前に学び、みんなで説教箇所の予習をしています。

この帰納的聖書研究法は信徒一人一人が自分の頭と心で聖霊に導かれながら聖書のみことばを考え、みことばから気づかされ、自分の生活に適用していくため、より聖書のみことばが心に残り、各自の信仰の成長に役立つといえます。

特に、聖書入門クラスでは未信者の方々も出席していますが、聖書を教えるのではなく、一緒に学ぶという姿勢を大切にしています。実際に未信者の方々の発言を通して様々な新しい気づきを与えられる事もしばしばあります。聖書入門クラスが、決して未信者を救いに導くために示威的になったり、誘導的になったりしないように質問内容にも気をつけています。たとえ未信者の方々がなかなか信仰決心をしなくても聖書入門クラスに出席する限りは、いつまでも一緒に学ぶという姿勢を大切にしています。その結果、聖書入門クラスに10年以上出席されて信仰を持たれ、洗礼を受けられたという人もいます。このように、あくまでも聖書のみことばと共に働かれる御霊の働きを大切にしています。

幸いにも、私たちの教会ではこの聖書入門クラスを通して、信仰を持ち、バプテスマを受ける方々が起こされ、そのような方々が受洗後も聖書入門クラスに出席し、学びを続けています。それは、この学びを通して聖書を学ぶ楽しさというものを参加者一人一人が味わっているからだと思います。